2015年（平成27年）
第90号
（6月1日）

平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

明るい地域や世界の平和を願って　～第４回こころひとつにフェスティバル～

５月 17 日、京都教会地下３階の体育室をメイン会場にして、第４回「こころひとつにフェスティバル」が開催されました。地域の方を含め、約 450 人の参加がありました。

体育室の正面に掲げられた「一心」幕を前に、参加者たちは模擬店の料理を食べながら、共に語らい楽しい、時間を過ごしました。この幕は、５年前に東日本大震災の復興を願って、書家の吉川壽一氏が揮毫されたもので、フェスティバルのシンボルになっています。

朝９時に世界平和を祈念して、青年部が中心となってご供養が行われました。そして、引き続き参加者が２班に分かれ、ほうきや金バサミなどを持って、約１時間の地域清掃を行いました。

11 時から体育室でオープニングが行われました。鼓笛演奏とバトンの披露がありました。そして、場内各所に設けられた模擬店などの販売が開始されました。

今回の新たな取り組みとして、子供たちを対象にスタンプラリーが実施されました。受付で台紙を受け取って、9 か所のコーナーで射的や金魚すくいなどのゲームにチャレンジ。一通り回って、ゴールで賞状を受け取りました。

また、「アフリカへ毛布をおくる運動」コーナーも設けられ、子供たちが毛布に縫い付けるメッセージを書いてくれました。集められた毛布は６月１日に発送される予定となっています。

各支部が工夫を凝らして模擬店やフリーマーケットで 353,459 円の収益がありました。この収益金は今回も京都新聞社会福祉事業団に寄付し、地域福祉の向上に役立ててもらいます。

時事刻々

五月に京では町内ごとに「お千度」という行事が行われます。地域の氏神さんにお参りし、一年間の町内安全を祈願します。中には『千度札』と呼ばれる木片を持って、お堂の周りをひと回りするごとにそれを納めている町内もあります▼子どもの頃「お千度」とは、一回お参りすれば、千回分の値打ちがある……なんて誤解していた頃もありました。関西弁で「せんど〇〇する」というのは「何回も」ということですが、これも「お千度」から来ているようです▼筆者の住む地域の氏神さんは、平安初期に無実の罪などで非業の死を遂げた人物が祀られています。当時は天変地異や疫病流行はこの怨霊によるものと考え、それを鎮めるために祀られた神社です▼これを迷信とするのでなく、人間を超えたものの存在を信じること、それに畏敬の念をもって祈ることは、日本人として大切にしたいところです▼「お千度」のおかげで、町内の和と協力関係が築かれ、災害に負けないようになることでしょう。

今月のことば　～「南無」ということ～　　洛叡支部長　上杉益代

今月は洛叡支部の上杉が担当させて頂きます。宜しくお願い致します。

６月号佼成の会長先生のご法話は**「南無ということ」**で頂いております。

前段は**「真実」に帰る**、です。最初に、いま私たちが生きている現実の世界は仮のもの、という意味の言葉に『**世間虚仮**（せけんこけ）』があります。この言葉につづく対句が『**唯仏是真**（ゆいぶつぜしん）』、つまり『ただ仏の世界だけが真実である』と述べられます。

「これは、他と比べて優劣を評価する錯覚の世界に生きる私たちも、本来はみな等しく尊い存在であって、**大小・長短の比較などしなくてよい世界に住んでいる**のだ、ということです。だから、この世界を『仮』といい、絶対や無限・永遠を本然とする世界を『真実』というのです。その『真実』に帰ることを本義とするのが宗教であり、信仰であり、人間としてのほんとうの姿である」と教えて頂いております。

この姿勢を示しているのが、本会で唱えさせて頂くお題目「南無妙法蓮華経」の「南無」で、**『南無』とは、帰依とか帰命を意味し、全身全霊を投げ出し、あるがままにおまかせします**という表明で、真実の世界に生きていることへの感動を蘇らせる言葉でもあると改めて教えて頂きました。

会長先生は、次のように話されています。「南無妙法蓮華経」を唱えるということは、仏さまの教えの素晴らしさがわかり、それに帰依しますということの表明です。また、その思いを身体で表現すると、**合掌・礼拝**ということになります」と。

朝夕のご供養や各種行事の際に、「南無妙法蓮華経」とお題目を三唱しますが、私はしっかりと心をこめて唱えさせて頂いていたかなと改めて振り返るチャンスを頂きました。

後段では、**「真実」にめざめるとき**について教えて頂いております。

日蓮聖人は、「南無妙法蓮華経」と唱えれば自身の仏性が呼び覚まされると諭されています。このことから、「南無」すなわち真実に帰るといっても難しいことではなく、「ほんとうは真実の世界に生きているのだ」と気づくこと。そのきっかけが題目であったり、苦から逃れたい、心で思わず神仏を拝む瞬間であったりすると教えて頂いております。

「南無」との出会いも色々とある中で、本会でも読経供養の際に三帰依文を唱えているように、**「南無」とは、仏・法・僧への三宝帰依が基本**になっています。そして、ほぼすべての仏教に共通するものです。

この意味合いを、会長先生は「法」を中心として、つぎのように受けとられています。

「真実の世界を自覚した私は、みんながめざめることを願い、仏の教えによってともどもに智慧を得つつ、多くの人が真実にめざめて幸せを味わっていただけるように歩みつづけます」と…。

このように会長先生ご自身から会員一人ひとりに一杯一杯のお慈悲をかけて下さり信仰をもつ悦びを味わってほしいと願っておられるのだと受け取らせて頂きました。

結びにあたり、今回頂いたテーマは、正直いって難題と受けとめていました。しかし、仏さまは私にとって慈悲深く「あるがままにお任せします」といった生き方、信仰心がしっかり身につくようにはからって頂いたのだと有難く受け止めさせて頂きました。

親の導きによって法華経にご縁を結んで頂いたおかげさまで、毎日大きな苦をかかえながらも不思議なことに執着しない生活を送らせて頂けていること、又、お役のおかげさまと感謝しております。これからも、明るくこの身をつかわせて頂き、精進してまいります。

合掌

青年婦人部だより　「ちょっといい話!!」　～婦人部長　杉山かおるさん～

今年から婦人部長のお役を頂いて、無我夢中で早５か月が経ちました。小さな息子を連れてのお役ですので、教会へ来られない日があり、動きもままならないことが多い中、多くの方に助けて頂き支えて頂いてるおかげさまで、なんとかお役させて頂いています。

息子は２歳２か月になり、言葉も自分でやりたいことも急に増えて、日々成長を感じます。主人と二人で生活していた頃は言い合いなど一切ありませんでしたが、息子のしつけや子育ての仕方を通して、考え方の違いがあることに改めて気づきました。転ばぬ先の杖をいっぱい用意して早めに手を出す夫と少々失敗してもさせてみたい私、休みはいつも家族揃って過ごしたい彼といろんな人と交わる機会を持ってほしい私など。大きな子育て方針は一致しているので、それぞれの良さを活かすように、また夫の気持ちを大切にできるように、よく話し合いすることを心掛けています。

私を支えてくれる夫は、陰役や子育てを喜んでしてくれている『育メンパパ』です。夫の姿を通して、お役も子育ても、「相手の方のことを思い、まごころ込めて感謝・ほめる」で取り組ませて頂きます。

近畿支教区カンボジア平和使節団に参加して

４月１～６日まで近畿支教区主催のよる第９回カンボジア平和使節団（団長＝岩崎福知山教会長）に高校生・大学生１８名、スタッフ４名の計２２名が参加しました。京都教会からは中嶋唯菜さん、吉田侑加さんが参加されました。５月１０日に報告会が行われました。下記に発表内容を要約させて頂きました。

何事にも関心を持つことが大切　～中央支部　中嶋唯菜さん～

私が参加させて頂くきっかけとなったのは、中学生の時に、「ゆめぽっけ」を実際に現地に行って直接子どもたちに渡している姿をビデオで拝見させて頂き、現地の子どもたちが本当に喜んでくれている姿を見て、今までの活動の意味が分かり、直接交流を持ちたいと思ったからです。

私がカンボジアに行って印象に残ったことは、一つ目は、カンボジアの子どもたちの笑顔です。スラム街に行った際、子どもたちとの交流の時間がありました。日本から持って行った遊び道具にも興味を示してくれてすぐに仲良くなることが出来ました。二つ目は、カンボジアで働く日本人の方たちに教わった、多くのことです。JVC(ジャパン　インターナショナル　ボランティアセンター)という日本人のボランティア団体の方は農業などのサポートをされていて、そのお手伝いにも参加させて頂きました。「足りないものをあたえるのではなく、作る方法を一緒に考える」「紛争で傷ついた人を助けるだけではなく、紛争を起こさない道を作る」ということを教えて頂きました。

SVA(シャンティ　ボランティア　アソシエーション)という学校建設や移動図書館などを通して子どもたちの教育を支援しておられる日本人のボランティア団体では、助け合いの精神、物を大切にする姿勢を教えて頂きました。日本人なら物が壊れたらすぐに捨ててまた新しい物を買い直したりするけど、そんなお金がないからこそ大事に使い、壊れても治してまた使うという姿勢を私たちも見習わなければいけないと思いました。

このカンボジア平和使節団を通して学んだことは、何事にも関心を持つことの大切さです。カンボジアに行くまでは海外のニュースを見ても別世界の話だと思いあまり興味も湧きませんでした。もっとほかの国にも行って自分の目で見てみたいと思うようになりました。

世界の平和を導ける存在となりたい　～宇治支部　吉田侑加さん～

私がこの研修に参加した理由は、発展途上国の現状と内戦からの復興を自分の目で確かめてみたかったからです。実際にアンコールワット・トム、ＪＶＣ、スナーダイクマエ孤児院、スラム地区（シャンティ国際ボランティア会の活動の様子）、トゥールスレン刑務所、キリングフィールドを見学しました。アンコールワット・トムでは古代の豊かなカンボジアを思わせる荘厳な雰囲気を感じることができた一方で、遺跡の中にもいまだ処理されていない地雷が残っていることを知り、戦争は貴重で立派な文明の遺産をも破壊し、負の遺産を生み出す悲しいものなのだと思いました。次にＪＶＣ（日本国際ボランティアセンター）というＮＧＯ団体を視察し、「地域の人に教えるのではなく、ともに学ぶ」という姿勢に感動しました。

今回の研修ではカンボジアの負の側面を見る機会が多かったように思います。たった４０年前の同じアジアで起こった、一国のトップが国民を虐殺するという悲しく許しがたい事件を、今の日本人の若者は知らないということを見逃してはならないと思いました。このような悲惨なことが二度と起こらないために、私たちは悲惨な過去を知る必要があると思いました。私は、これまであたりまえだと思っていた今の生活や家族、自分自身のいのちに感謝し、今回カンボジアで学んだことを私だけにとどめることなく多くの人に還元していこうと思います。また今回の研修を生かして、世界の平和を導ける存在となれるように、今私にできる、たくさんのことを学び吸収していこうと思います。

日本国際ボランティアセンター

劣悪な環境のスラム地区

大虐殺が行われたキリングフィールド

「我が家の一食推進委員長」　～会員各家で「一食を捧げる運動」の輪が広がる～

佐藤教会長より提案のあった「〇〇家一食推進委員長」の輪が広がっています。この取り組みは、家族の中で子供が「一食推進委員長」になり、毎月 1 日と 15 日に家族に一食運動の実行を呼びかけようというものです。

近藤祐造京都教会一食推進委員長は、この趣旨に賛同し家族に呼びかけた所、中学１年生の息子さんが「近藤家一食推進委員長」になってくれたそうです。それを聞いた京都教会の会員の中からも次々に賛同者があり、「中学生の娘が一食推進委員長になって、手作りの募金箱も作ってくれた」との報告もありました。

また、先月「カンボジア平和使節団」に参加し、一食平和基金による支援の取り組みを現地で体験した学生部の吉田侑加さん(高 3)も、自らが「吉田家一食推進委員長」に立候補し、中学生の妹さんを「吉田家渉外部長」に任命したそうです。

恵まれた暮らしをしている私たちが「同悲」「同苦」を味わい、厳しい環境での暮らしを余儀なくされている方々に思いを馳せ、平和への祈りを込めてこの運動を推進して行きたいと思います。

市販のボックスを工夫し、作成した募金箱

地区明社活動レポート　～各地区の特色を活かして元気な活動～

■第２５回福祉バザール（宇治・城陽・久御山明社）

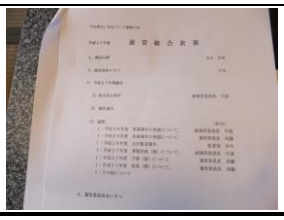
４月２９日に第２５回福祉バザールが宇治明るい社会づくり運動の会と城陽・久御山明るい社会づくり運動の会の主催により開催されました。志津川福祉の園の太鼓演奏の後、開式の辞で宇治明社会長の花房宇治神社宮司からあいさつを頂き、来場された山本宇治市長、山井国会議員をはじめ府・市議会議員からもあいさつを頂きました。

模擬店では焼きそば、カレー、から揚げ、コロッケ、おはぎ、飲み物等、数多く出店されました。お天気にも恵まれたこと、また２５周年の記念の年でもあり、地域からも多くの方々が参加して下さいました。このバザールでの収益金 314,384 円は、すべて宇治市社会福祉協議会の「ふれあい基金」へ寄付され、25 年間の累計額が 10,290,847 円となりました。

■中央明社総会

４月 29 日、南区吉祥院「はなはな」に於いて中央明るい社会づくり運動の会の総会・懇親会が行われました。

地域のニーズに合わせた活動や地域情報の収集など、さまざまな建設的な意見も出て、これからの中央明社の活動に結びついていくでしょう。



６～７月の主な教会行事

6 月 1 日(月)	9:00～	朔日参り・布薩の日
4 日(木)	9:00～	開祖記念館 10 周年記念講演会
10 日(水)	9:00～	脇祖さまご命日
14 日(日)	9:00～	水子供養
15 日(月)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
7 月 1 日(水)	9:00～	朔日参り・布薩の日
4 日(土)	9:00～	開祖さまご命日
15 日(水)	9:00～	盂蘭盆会

●メッセージ

本部聖壇のお役を頂き、ご本部へ行かせて頂きました。会社は聖壇当番の前日は午後から半休、当日は全休を申請しました。終わって次の日、会社へ行くと工業団地の共有駐車場で草刈り作業中、円盤カッターで跳ねた石が車に当たり、傷が付いたものやガラスが割れる被害があったといいます。私は休んでいる為、被害には遭いませんでした。大悲代受苦、社員が私に代わって苦を受けて頂いた観音様に見えました。